

平成30年度 第1回
奈良市社会教育委員会議
会議録

平成30年 6月28日会議

平成30年度第1回奈良市社会教育委員会 会議録			
開催日時	平成30年 6月28日(木) 午前9時30分から午前11時20分まで		
開催場所	奈良市役所 北棟2階 第16会議室		
出席者	委員	井上委員、上田委員、岡田 _和 委員、岡田 _龍 委員、岡本委員、奥田委員、加藤委員、川田委員、川野委員、艸香委員、小北委員、竹内委員、中村委員、八木委員 【計14人出席】 (坂田委員、村上委員は欠席)	
	事務局	教育長、教育総務部長、学校教育部長、教育総務部次長、生涯学習課長、生涯学習課課長補佐、生涯学習財団事務局長 「3 奈良市社会教育推進計画に基づく事業報告について」部分のみ担当課(文化財課、地域教育課、中央図書館、協働推進課、子育て相談課、子ども育成課、福祉政策課)出席	
開催形態	公開(傍聴人 0人)	担当課	教育総務部 生涯学習課
議題 又は 案件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正・副議長の選出について 2. 平成30年度社会教育関係事業について <ol style="list-style-type: none"> ① 「平成30年度補助金交付社会教育団体」について ② 「平成29年度社会教育委員事業実績」について ③ 「平成30年度社会教育委員事業計画」について 3. 奈良市社会教育推進計画に基づく事業報告について 4. その他 		
決定又は 取り纏め 事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正・副議長の決定 2. 「平成30年度補助金交付社会教育団体」の承認 3. 奈良市社会教育推進計画 事業評価シートの点検・評価の体制を構築するため、社会教育委員に協力を依頼する。 		

議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等

1. 正・副議長の決定

- ・正議長に奥田委員が指名され、承認された。
- ・副議長に、岡田（龍）委員、小北委員が会議長より指名され承認された。

2. 平成30年度社会教育関係事業について

① 「平成30年度補助金交付社会教育団体」について【資料1】

- ・補助金交付の承認にあたり、関連団体に所属する委員については一時退席の対応をした上、各団体及び事業概要の説明を行った。
- ・社会教育に関する事業を主たる目的とする社会教育団体「奈良市PTA連合会」「奈良市子ども会育成連絡協議会」、「一般社団法人ガールスカウト奈良県連盟奈良市協議会」及び「ボーイスカウトわかくさ地区協議会」の4団体に対する運営補助と「チャイルドラインなら事業」、「ボーイスカウト日本ジャンボリー参加事業」、「ガールスカウト奈良市協議会50周年記念事業」への3つの事業補助を予定している。
- ・このうち4団体への運営補助金と「チャイルドラインなら事業」は例年交付しており、「ボーイスカウト日本ジャンボリー参加事業」、「ガールスカウト奈良市協議会50周年記念事業」は臨時の補助金である。

* 補助金交付資料について一か所間違いがあり修正を行った。

< 補助金交付について承認された >

② 「平成29年度社会教育委員事業実績」について【資料2】

- ・資料のとおりであることを説明した。

< 特に意見なし >

③ 「平成30年度社会教育委員事業計画」について【資料3】

- ・各種大会の詳細な通知が届き次第、委員の方々に案内することを説明した。
- ・奈良県社会教育委員連絡協議会総会へは、奥田委員が出席した。

3. 奈良市社会教育推進計画に基づく事業報告について

- ・奈良市社会教育推進計画に基づき、平成29年度に各担当課が実施した主な取組事業の評価シート【資料4-1】について下記内容を説明した。
 - ✓ 事業評価シートは、計画の三本柱である「まなぶ」「つなげる」「ささえる」という項目別に作成している。
 - ✓ 基本情報は、第4次総合計画にある指標をそのまま掲載し、事業の取組状況、成果や課題等を各課に聞き取りをした内容を記入している。

- ✓ 担当課評価欄については、社会教育推進計画が平成29年9月に策定されており、初回の評価であり前年との比較ができないため、今回に限り空欄となっている。
- ✓ 本日ご意見をいただき、社会教育委員会議における意見等の総括欄にとりまとめる予定である。
- ・「奈良市社会教育推進計画」事業評価の流れについて【資料4-2】下記内容を説明した。
 - ✓ 事業評価シートの点検・評価を実施いただき、ご意見をまとめた上で事業実施担当課にフィードバックする。そのご意見を踏まえ、各担当課が次年度に向け事業の見直し、予算措置に反映するか等を検討する流れになる。
 - ✓ 例年10月に予算要求の時期を迎えるため、それまでに担当課にフィードバックをしたい。
 - ✓ このような流れで社会教育委員からのご意見を反映できるような、PDCAサイクルを定着させていきたい。

【委員からの意見・質問等】

- ・ 地域自治組織設立推進事業について、簡単に内容を説明して欲しい。
 - 地域自治連合会、PTA、地区社協等、既存で存在する地域の様々な組織をまとめ、地域自治協議会を設立した上で、地域の誰でもが参加できる仕組みづくりをすすめている。(協働推進課)
- ・ 放課後子ども教室推進事業と放課後児童クラブの違いを教えて欲しい。
 - 放課後子ども教室とは、小学生を対象に、主に学校の施設を使用し、放課後や土曜日の子どもの居場所づくりを目的としており、主に地域の方々が子どもたちに様々な体験をさせる事業である。放課後児童クラブとは、放課後児童健全育成事業として設置しているもので、本市のバンビーホームに該当する。(地域教育課)
- ・ 地域自治組織について、自治会の加入者も減っている中で、このような組織を設立するねらいは？また、交付金の交付は平成30年度初めてのものか。
 - ワークショップ等で地域の課題を協議しながら、地域住民と共有する手法ですすすめている。また、平成30年度から、準備交付金として交付している。(協働推進課)
- ・ 公民館も同じように地域の課題を地域の住民とともに。というところを進めているが、すみわけ、違いや連携についてはどのように考えておられるのか。
 - 今のところは地域各種団体を含めているが、公民館も一緒にという地域もあるが、地域の判断に任せているのが現状である。(協働推進課)
- ・ 地域自治組織の枠組みは決まっているのか。
 - 基本的には自治連合会単位の枠組みで進めている。(協働推進課)
- ・ 地域自治組織について、社会教育推進計画に含まれている経緯を教えてください。

→本計画の3本柱のひとつである「つなげる」の「地域コミュニティ形成に向けた仕組みづくり」という方向性において、この取組により、地域自治協議会が設置され、地域で活動されている各団体や人々がつながり、行政と協働連携することで地域のネットワークが構築される仕組みが作られると考えており、本計画の事業に含めている。(生涯学習課)

- ・図書館における学習事業についてですが、今年度もストーリーテリングの養成やボランティアの養成は開催されるか。

→今年度もストーリーテリングの初心者向け、ある程度経験を積まれた方の養成講座を行う予定をしている。ボランティア参加いただく際についても、基礎的な知識や図書の分類等における考え方を予め勉強した上で臨んでもらっている。(中央図書館)

- ・地域で決める学校予算事業、放課後子ども教室推進事業において、後継者や担い手が見つからないことが課題であると実感している。活動が活発になってくると、地域の方々が主体で実施する目的でされている事業であっても、保護者の見守りが必要になってきたりしているのが現状である。次の世代の担い手を増やしていくため、育てるための工夫はされているか。

→この事業を一人でも多くの人に知ってもらい、参加するにあたっては、難しいことではなく、自分のできることから関わってもらえるというように、垣根を低くすることで、やりがいや手ごたえを感じてもらいより多くの人々に関わっていただくことができるようにしていきたいと考えている。(地域教育課)

- ・地域で決める学校予算事業、放課後子ども教室推進事業についてですが、研修回数、開催日数について具体的な数値があがってくると良いのではないかと。数値的なものが、絶対ではないと思うが、課として増加を目指すことを目標とされているのであれば、明記される方がわかりやすいのではと思う。なお、基本情報の成果指標についてもそれが適応されるべきではないか。

- ・評価シートの中で、同じ事業が別のシートで上がっているが、全て同一の内容になっている。3本柱の「まなぶ」「つなげる」「ささえる」というそれぞれの違う観点での点検・評価をするのであれば、内容もその視点で書かれていけば、理解が深まると考える。

- ・放課後子ども教室について、学校との関わり、例えばスタッフとどのように情報交換し、子どもの育ちにお互いが役割分担したり、連携協力しているのか、書いていただきたい。他の地域では場所貸しだけで、教職員との連携がないところもあり、明記していただくことで、プラスの評価になると考える。

- ・奈良ひとまち大学、くろかみやま自然塾等について、定員を上回る応募があった際、抽選で落選をした場合、対応やフォローをされていることがあれば教えていただきたい。

→奈良ひとまち大学で好評だった事業については、公民館でも同じ事業を取り入れるという試みも行っている。(生涯学習財団)

→くろかみやま自然塾については、厳正なる抽選であることをご理解いただいた上で実施している。(生涯学習課)

- ・事業評価シートの担当課の評価欄についてはどのタイミングで書かれるのか。
- 本計画が、平成29年9月に策定されたこともあり、前年度との比較ができないため、今年度に限り空欄とさせていただいている。
- ・事業担当課が社会教育委員会議に参加いただき、画期的なことで素晴らしいことだと思う。今後も事業担当各課において点検・評価いただきPDCAをまわしながら、取り組んでいただければと思う。
 - ・この事業評価シートが、事業を実施されている担当課において、プラスに、応援になるものになればと考えている。担当課において、冷静に分析することで客観的に整理ができ、課題も見えてくる。また、点検することで、これだけの事業をきちんと実施していることを成果として認識するだけでなく、市長部局や市民にアピールするためのものにしていただければと思う。また、指標についても、利用者数や実施日数等、当然のように数値があがっていくという目標値を設定されているが、それが本当に健全なのか、妥当なのか。社会情勢等により、もしかしたら横ばいもしくは下がっていても問題ないのではないか、といったことについても、担当課、携わっていただいている方の意見もききとりながら設定していければと考えている。

4. その他

- ・今後の方向性について事務局から説明を行った。
- ✓ 昨年度の第2回定例会や新規委員の委嘱の際に、年2回の定例会以外に3つの部会を設け、委員の全員にいずれかの部会に参加いただくという内容で説明をしていた。事務局としても部会設置や進め方について検討を重ねてきたが、平成29年度に策定した社会教育推進計画を着実に進めるためにも、本日会議内でも示した事業評価の流れを定着させ、点検評価の体制を整えることを最優先すべきことであるという考えに至った。
- ✓ そのため、部会の設置については現段階では行わず、今後の活動の中で課題等が見えた時点で部会の設置をしていけたらと考えている。
- ✓ 本日多くのご意見をいただいた事業評価シートの点検・評価の手法についても、施行錯誤しながら改善していきたいと考えているため、ご意見の総括するにあたって委員の皆さんにご協力いただきたいと思います。

【委員からの意見・質問等】

- ・事業評価の体制を整えるということを最優先で行っていききたいということで、意見の総括についても協力していきたい。
- ・これまでも、社会教育推進計画を策定するにあたり、代表メンバーで小委員会を設置し、決定事項については随時全委員に状況をご報告しながら進める形式をとっ

ていたこともある。今期も部会の設置の前段階として、社会教育委員会議として点検・評価をまとめ、事務局に提言するという委員を複数名選出してはどうか。

- ・それは自主研修のようなものと同じようなものと考えてよいか。
→これについては、教育委員会の依頼を受けて行う社会教育委員の活動の一環であり、自主研修（勉強会）とは別である。
→なお、5～6名で2～3回の会議実施を予定しており、予算確保はある。

<奈良市社会教育推進計画事業評価シートの点検・評価の体制を構築するため、社会教育委員に協力を依頼することについて承認された>

- ・メンバーについては、前期のご経験がある、川野委員に入っていただきたい。また、岡田（龍）委員にもアドバイザーという立場から入っていただきたい。
（小北委員、奥田委員はオブザーバーとして参加をする予定）
→川野委員、岡田委員について、協力いただくことについて、了承された。
- ・協力いただく委員として、岡本委員、加藤委員、川田委員の3名が参加希望された。
- ・詳細については事務局と連絡をとりながら進め、委員の皆さんにも状況を報告する。

資料	【資料1】平成30年度補助金交付社会教育団体一覧 【資料2】第29年度社会教育委員事業実績 【資料3】平成30年度教育委員事業計画 【資料4-1】奈良市社会教育推進計画 事業評価シート 【資料4-2】奈良市社会教育推進計画 事業評価の流れ
----	---